

日本物理学会九州支部主催・佐賀大学共催 市民講演会

講師 沢田昭二さん（名古屋大学名誉教授）

演題 「原発と内部被ばくの真実」

とき 2011年12月4日 13時30分～15時30分

ところ 佐賀大学・教養大講義室（本庄キャンパス，佐賀市本庄町1）

どなたでも自由に参加できます（参加費無料）

福島原発事故の後，食品の放射能汚染やガレキ処理など，だれもが「被ばく」についての知識が必要になりました．放射能・放射線の人体影響についてはさまざまな見方があります．特に「内部被ばく」については，従来からの国際放射線防護委員会（ICRP）と，新しく活動し始めたヨーロッパ放射線リスク委員会（ECRR）とでは，危険度のとらえ方に大きな開きがあります．いったいどちらを信じたらいいのでしょうか？

沢田昭二さんはこの問題について原爆被爆者の被ばくから研究しています．また，名大の坂田研究室の一員として，わが国の原子力開発と学者との係わりをつぶさに目撃されています．その貴重な証言もうかがえると思います．どうぞ多数おいで下さい．

講師プロフィール

1931年広島市生まれ．広島大学大学院修了・理学博士．専門は素粒子論．広島大学理学部助手，名古屋大学理学部助教授・教授を経て1995年定年退職．名古屋大学名誉教授．

13歳のとき爆心地から1,400mの自宅で被爆．迫る火の中で母親を助けることができなかった体験を持つ．1954年のビキニ事件以後，学生として，また科学者として核兵器廃絶運動に参加，パグウォッシュ会議や科学者京都会議などに参加する．

定年後，広島・長崎の原爆放射線線量，原爆被爆者の急性症状発症率から放射性降下物や残留放射能による被曝影響を研究．原爆裁判において証言，また厚労省の認定基準検討会，与党プロジェクトチーム（政権交代前），ヨーロッパ放射線リスク委員会の国際会議などで研究結果を報告．現在，原水協代表理事，愛知県原水協理事長，非核の政府を求める会代表世話人など．

著書等：

『素粒子の複合模型』（岩波書店，1980年，共著），同ロシア語翻訳版（ナウカ）／『物理数学』（丸善，1990年）／『核—知る・考える・調べる』（1982年，合同出版，共著）／『SDI—スターウォーズの科学・政治・経済』（1987年，大月書店，共著）／『非核自治体—抗議・学習・連帯』（1987年，汐文社，共著）／『共同研究—広島・長崎原爆被害の実相』（1999年，新日本出版，共著）／『核兵器はいらない！—知っておきたい基礎知識』（2005年，新日本出版）／Cover-up of the effects of internal exposure by residual radiation from the atomic bombing of Hiroshima and Nagasaki; *Medicine, Conflict and Survival*, 58—74, **23** (2007)．ほか翻訳書，専門／他分野の論文など多数．

問い合わせ：佐賀大学工学部物理科学科 豊島耕一（Tel:0952-28-8845, toyo@cc.saga-u.ac.jp）